

# 特集 3 商・材・研・究 ネットワークカメラ

## 映像モニタリングにもIP化の波 用途拡大で新市場創出に期待

ネットワークカメラ市場が急速に開花し始めた。監視用途はもちろん、IP化により利用シーンはマーケティングやプレゼンテーションなどへも広がり、新規需要を創出する新商材として注目が高まっている。

ネットワークカメラ市場が急拡大している。背景にあるのは、まずブロードバンドの普及だ。ADSL・光ファイバーの普及でブロードバンドの利用が急速に進展するなかで、音声のIP化、つまりIP電話が一般化しているが、その波はとうとう監視カメラの領域にまで及ぼうとしている。IP対応のネットワークカメラ市場の活性化だ。

社会における「セキュリティ意識」

の高まりもネットワークカメラの普及を後押しする。2003年の犯罪発生件数は、8年前の1995年と比べ、50%以上も増加。また、検挙率も42.2%から23.2%へと大幅に低下している。「安全大国日本」の神話が崩れつつある今、大企業や金融機関などだけでなく、一般のオフィスや店舗の間でも、防犯システムへのニーズがかつてなく強まっているのだ。

監視カメラの歴史を振り返ると、ビ

デオテープに録画を行うアナログカメラの時代が長らく続き、近年になってハードディスク録画型のデジタルビデオレコーダーへのリプレースが始まった。今後、主流がネットワークカメラへと移行するのは、当然の流れといえる。

これまで監視カメラ市場を推進していたのは、ビル設備事業者や電気工事業者、警備会社などである。通信系ディーラーやシステムインテグレーターにとっては、まったく畑違いの市場だったといつてよい。

しかし、ネットワークカメラの登場で事情は変わる。通信系ディーラーやシステムインテグレーターの土俵であるLANやインターネットなどにカメラが繋がったのだ。

反面、利用サイドから見ると、カメラがLAN/WANのネットワークにつ

**ネットワークカメラ**  
LANポートとWebサーバー機能を搭載したIP対応のデジタルビデオカメラ。LANやインターネット、IP-VPNなどを介した、リモートモニタリングを可能にする

ながり、容易にリモートモニタリングが可能になったことで、監視以外にも利用シーンが急拡大している。幼稚園に置いて子供の様子を父兄に公開したり、店舗の様子をインターネットで公開したり、オフィスの受付に利用したり、商店街の防犯に活用したり、と無限の広がりを見せている。

急速に成長するネットワークカメラ市場の現状、そして各メーカーの製品とソリューションの特徴を見ていく。

### 認知が進めば売れる

パナソニックコミュニケーションズは、反響の大きさに小躍りした。今年2月、同社はある全国紙にネットワークカメラの一面広告を掲載。返ってきたのは、通常の広告より1ケタも多い反響だった。カスタマーセンターへの電話は、有料にもかかわらず、一時期鳴り止まないほどだったという。

「認知度が高まれば売れる。そう確信できた」。事業・商品企画グループ ビジネスマーケティングチーム副参事の寺内宏之氏の顔から、笑みがこぼれる。受注額はこの2月、3月、倍増し、生産が追い付かない状況だ。

システムインテグレーターも市場の

拡大を肌で感じている。キヤノン販売グループの一員であるキヤノテックは、数年前からネットワークカメラソリューションに取り組んできたが、ネットワークサービス第1営業本部の牧原邦雄氏によれば、「半年ほど前から、右肩上がりの成長が顕著になってきた」という。

ワールドワイドでシェア6割を占めるトップメーカー、アクシスコミュニケーションズの代表取締役副社長、アンダース・ローリン氏は日本市場について、次のように分析する。「日本のネットワークカメラ市場の規模は、まだ米国の10分の1程度。欧米と比べると、まだ立ち上がったばかりであり、数年は倍増ペースも容易だ」。ネットワークカメラ市場の成長はまだ始まったところである。

### 広がる新ニーズ

では、いったいネットワークカメラは誰に売れ始めたのだろうか。パナソニックコミュニケーションズによれば、「特定分野への偏りは見られない。幼稚園や病院、企業、小規模店舗など、幅広い分野で売れている」という。これには同社のマーケティング戦略も大きく関わっている。彼らが掘り起

こそうしているのは、従来の監視用途にとどまらない、新しいマーケットだからだ。

前述した幼稚園や店舗での活用例をはじめとして、離れた場所の映像を見たいという潜在的なニーズは、広く存在する。ネットワークカメラはこのニーズを手軽に実現するものだ。パナソニックコミュニケーションズの戦略が当たっていることは、彼らが国内シェアトップであることが証明している。

### 監視市場の裾野も広げる

新しい利用シーンが広がる一方で、従来からあった監視用途でも好調な伸びを示している。市場全体で見れば、こちらの方が占めるウェイトは当然大きい。とりわけ、まず普及が進むと見られているのが、簡易的な監視用途においてだ。

ネットワークカメラは、低コストが特徴の1つだ。これは何も警備員を置く場合と比較してだけではない。従来のアナログカメラなどと比べても安く上がるケースが多いのである。導入に際して、既存インフラを生かせるためだ。

従来カメラの場合、ケーブルの敷設工事が必要だ。また、専用のモニタリングシステムも購入しなくてはならない。それに対して、ネットワークカメラの場合、すでにLANが敷設されていれば、新たなケーブル工事は不要だ。新設が必要な場合でも、セン

図1 犯罪件数と検挙率の推移



図2 ネットワークカメラの主な利用シーン

	<b>防犯</b> ビル、マンション、店舗、学校、倉庫、駐車場、ガソリンスタンドなどのセキュリティ対策		<b>防災</b> 河川の水位情報、海岸線の津波情報、山林の土砂崩れ情報などをリモートモニタリング
	<b>状況監視</b> 工事現場や工場のライン、道路の混雑状況などをリモートモニタリング		<b>マーケティング</b> 陳列棚などに設置し、マーケティングに活用。また、店内や観光地の様子をインターネットで公開
	<b>見守り</b> 幼稚園や託児所、介護の必要な家庭、ペット病院などに設置し、父兄や飼い主に映像配信		<b>勤怠管理</b> 従業員の勤務状況や店内の込み具合などをリモートモニタリング